

# 第1回砺波市行政改革市民会議 会議録（要旨）

- 1 開催日 平成25年7月3日（水） 午前9時30分～午前11時30分
- 2 場所 砺波市役所 本館3階 小ホール
- 3 出席者 東委員、飯田委員、池谷委員、加藤委員、柴田委員、島田委員、砂崎委員、豊本委員、中西委員、丹羽委員、宮川委員、吉田委員、市長、副市長、教育長、企画総務部長、福祉市民部長、商工農林部長、建設水道部長、総合病院事務局長、教育委員会事務局長、庄川支所長、企画調整課長、財政課長、総務課長、総務課行政係長、総務課人事係長、総務課行政係主査、総務課行政係主任  
（岡部委員、北村委員は欠席）
- 4 説明及び協議内容
  - （1）行政改革市民会議の趣旨説明等を行った。
  - （2）会長に豊本委員、副会長に宮川委員を互選した。
  - （3）今年度の行政改革推進の体制、スケジュール、庁内会議専門部会検討事項について の説明等の後、意見交換を行った。
  - （4）平成24年度行政改革庁内会議第2専門部会の検討事項について の説明等の後、意見交換を行った。
  - （5）行政改革市民会議の下に公共施設の適正配置に関する専門部会を設置することとし、市民会議委員から、豊本委員、宮川委員、島田委員を専門部会委員に指名し、それ以外の委員は、市長が会長に諮って選任することとした。
  - （6）平成24年度実施及び平成25年度実施予定の行政改革・事務改善事項、砺波市行政改革推進計画について の説明等の後、意見交換を行った。
- 5 意見の概要

- ・行政改革庁内会議と行政改革市民会議の関係は。（委員）  
⇒行政改革庁内会議は市職員で構成し、その会議で検討された事項は、行政改革市民会議に報告する。また、行政改革市民会議は、専門的な事項について調査等を行いたい場合、専門部会を設置することができる。（会長）  
⇒行政改革推進の体制を見直されたことにより、組織がシンプルで分かりやすくなった。（委員）

- ・行政改革は削減や縮小ありきの後ろ向きなものではなく、前向きなものだと思う。大きな改革は革新と呼ばれ高い評価を受けやすいが、砺波市は中程度の改革を進めることが適当だと思う。身の丈にあった、過大過ぎない目標を常に持ち続けることが大切だと思う。(委員)

⇒行政改革市民会議は縮小ありきの会議ではないと思っている。委員の皆さんには、是非、前向きに考えてもらいたいと思っている。(市長)

- ・あまりに乱暴な定員削減の実施は、職員のモチベーション低下につながる。優秀な人材を確保することにも注力して欲しい。(委員)

- ・行政改革庁内会議専門部会検討事項に「地区集会場の整備等に関する調査・研究」とあるが、対象や研究内容は何か。(委員)

⇒公民館や集会施設は、建設してから年数も経ち、老朽化が進んでいる。また、耐震化もされていない。これらの施設は、様々な財源を活用するとともに、各地区の負担金等により建設したものであるが、今後の更新の仕方について、調査・研究をしていこうというもの。(市)

- ・行政改革庁内会議専門部会検討事項に「一部事務組合の分担金の縮減の研究」とあるが、どのようなことか。(委員)

⇒一部事務組合とは、複数の市町村が同じ目的を達成するために組織した公共団体である。この組織の運営費は税金等の収入がないことから、各市町村の分担金により運営されている。この分担金について、十分精査することで、より効率的に事務運営ができないかとの観点から研究を進めるもの。(市)

- ・行政改革庁内会議専門部会検討事項に「新たな職員提案の募集及び検討」とあるが新たな職員提案は何件あったか。(委員)

⇒現在も募集継続中であるが、6月末時点で60件程度の応募があった。(市)

- ・市役所からの電話は代表番号でかかってくるため、携帯電話に番号が残っていてもどこの部署からの電話かわからない。留守番電話に、所属課や名前を残すなどの配慮をして欲しい。(委員)

- ・市民サービスの向上の観点から、市民からの小さい、細かな相談を聞いてくれる窓口があれば良いと思う。(委員)

- ・行政改革庁内会議専門部会検討事項に「民間でできることは民間で」とあるが、市

職員でなければ出来ないことを、着実に進めて欲しい。(委員)

⇒市の業務には、民間でできることと、民間ではやってはいけないことがあると思う。最近「協働」と言われるが、一線をわきまえて議論する必要があるのではないかと。自治体の財政事情が厳しいことから、民間でできることと、民間でやってはいけないことについて、もっと議論していく必要がある。(委員)

・日銀から短観が発表されたが、時代の流れは大変速い。これまでの砺波市は、人口は減っても世帯数は増えていたが、その世帯数も減少していく日は、そう遠くないと思う。世帯数が減れば子どもが減る。子どもが減れば学校がなくなる。学校がなくなれば就職先がなくなる。就職先がなければ就職先を求めて都市部に移ってしまう。このような悪循環に陥ることがないように、環境の変化をしっかりと読み取って、行政改革や総合計画の議論を進めないといけない。そのようなことも踏まえて議論していく必要がある。(委員)

⇒他の自治体から、自分の会社に対し進出の誘いが来ている。他の自治体は、企業誘致や財源確保に真剣である。このような状況であることをしっかりと認識して行動していかないと、砺波市は取り残されてしまう。(委員)

⇒砺波市には総合計画という長期スパンの柱の計画があるが、5年間で一区切りにするとともに、毎年ローリングを実施し、時代に則した見直しを図るなどして対応を図っている。(市長)

・世の中の移り変わりが激しいが、市街地部では空洞化が問題となっている。砺波市は大型スーパーの進出が著しいが、若い人が市街地部に住めるような取り組みを進めて欲しい。(委員)

⇒砺波市は本当に住みよい街である。高齢者から、市立砺波総合病院は、待ち時間や送迎の間に周辺で買い物ができるので利用するという話を聞いた。砺波市にはこのような魅力も包蔵されていることを認識して欲しい。(委員)

・市には臨時職員も多い。臨時職員として働く者に、将来の正規雇用の可能性など、夢のある雇用を実現して欲しい。(委員)

・鷹栖出に自衛隊があるが、最近、拡張の話を目にした。砺波市にとって大変重要な施設であると思うので、是非、進めて欲しい。(委員)

⇒市として協力できることには協力したいと思っており、今後の国の動向を見守りたい。(市長)

・会議の進め方について、会議予定時間が2時間と制約があるため、検討項目を絞っ

て進める必要があると思う。資料は事前にもらっているので、委員から会長に対し検討項目等について要望を提出する方法で進めていけば良いと思う。(委員)

⇒本日は、第1回目の会議であるため、検討項目を絞らずに、このまま進めていきたい。会議の中で、集中して議論をすることが必要となれば、そのように進めていきたい。(会長)

・市では検討委員会等の様々な会議を設置されるが、大半の会議は、委員が議論や意見交換し市がそれを聞くという形式になっている。市職員の中には、それぞれの議題に対し大変強い思いを持っている者がいるので、そのような市職員も意見を言えるようなワークショップ形式の会議があっても良いのではないか。(委員)

⇒本日は第1回目の会議ということもあり、より多くの委員の意見を聞こうと、意図的に当局への質問形式にならないようにした会議の進め方をしている。会議の進め方や形式も行政改革の一つであり、大いに参考になる。(会長)

⇒会議をワークショップ形式で進めるということは、皆で議論をするということであり、賛成できる。(委員)

・子どもたちが通学で利用する城端線の今後について大変心配している。市では行政改革により組織の見直しや課の統廃合を進められているが、城端線の対策を強力に進める組織づくりをお願いしたい。(委員)

⇒城端線と氷見線の直通化について議論されているが、直通化よりも、城端線の利便性について考えていくことが重要であると思う。新幹線が開通すれば、城端線のダイヤは新幹線に合わせたダイヤになるであろうことは目に見えている。(委員)

⇒県職員は城端線の富山までの接続が悪いためか、全く城端線を利用していない。利便性が良くなればもっと利用者の増加も見込まれると思うので、城端線の利便性に着目して取り組んで欲しい。(委員)

⇒当市のことではないが、城端線についての議論を全く城端線を利用していない方々によって行われていることに不自然さを感じる。(委員)

⇒城端線の8割は通勤・通学客であり、通勤・通学客にメリットがない改革はどうかかなと思っている。私は、直通化が最優先課題ではなく、通勤・通学の利便性の向上を図ることが課題であると思っている。

・公共施設の評価について点数が示されているが、年間経費や利用人数等は公開されないのか。(委員)

⇒専門部会に資料を公開し、議論を進めていきたい。(市)

・これからの時代はスクラップ&ビルドではない。将来に負担をかけないためにも、

施設のスクラップを進めていかなければならない。(委員)

・公共施設の適正配置の検討の中で、他の用途への転用や施設の廃止などを検討するとされた施設には、利用者もいるので、その利用者からも意見を聞くことも必要だと思う。また、利用頻度や利用回数の観点からだけで廃止等の検討を行うのではなく、多面的な検討が必要である。(委員)

・施設を維持するためには大変な経費がかかる。一方、今ある施設を取り壊すのも大変な経費がかかる。そのため、今後は、修繕費が過大にならないよう、小まめなメンテナンスを行っていくことが必要だと思う。(委員)

・自治振興会連携推進員制度は、職員にとって生きた教育であるとともに、地域とのコミュニケーションが図られるため、良い制度であると思う。(委員)

⇒地域のゴミ収集ボランティアに市職員が参加しているが、コミュニケーションが図られるようになり良かった。反面、自治振興会連携推進員制度により派遣される市職員に、どのように接すれば良いかわからない。(委員)

⇒自治振興会連携推進員制度で派遣している職員には、各地区それぞれ、自由に接してもらえば良いと思っており、21地区それぞれの関係が出来上がれば良いのではないかと思う。(市長)

・資料に金額等の削減額が明示されており、分かりやすくなって良いと思うが、次回には、市営バスの路線見直し等により利用者数がどうなったかなど、金額だけでなく、利用者等の状況が数値で分かる様にして欲しい。(委員)

・砺波市の実質公債費比率等の財政数値を示して欲しい。行政改革について議論する委員として知っておきたい。(委員)

⇒次回の会議においてお示しする。(市)

・行政改革推進計画の中で「効果的、計画的な研修の実施」とあるが、具体的な中身を知りたい。また、研修によりどのような成果があったのか教えて欲しい。(委員)

⇒県や愛知県安城市に職員を派遣するとともに、役職に応じた業務研修や接遇の研修等を実施している。(市)

⇒市職員が庁内をスリッパを履いて歩く姿を見かけるが感じが悪い。砺波市役所に行ったら「愛想が良かった」や「感じが良かった」など、相手に与える印象を大事にして欲しい。(委員)

⇒市民に不快な思いをさせているようであり、直ぐに対応したい。(市長)

- ・ 行政改革の資料を見たり、話を聞くと、市当局の熱心さが伝わってきてうれしく思っている。(委員)